

令和2年度 摂食指導研修会①

日時：令和2年5月12日（火）15：45～16：45

講師：福島県総合療育センター耳鼻咽喉科医師 鈴木 雪恵先生

演題：「嚥下のメカニズムと摂食嚥下障害への対応」

「食べる動きに関する咽頭・喉頭のメカニズムを知る。」「摂食指導の基礎的な知識を得る。」を目的に、鈴木雪恵先生のご厚意によるご講義をいただきました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため新転入職員を対象とした研修会となりましたが、研修希望の教職員や調理師さんの参加もあり、皆さん熱心に耳を傾けていました。

<講義の内容>

- 摂食嚥下のしくみについて
 - 摂食嚥下障害の症状とリスクについて（誤嚥性肺炎、窒息など）
 - 摂食嚥下障害に対する具体的な対応
 - ・栄養摂取の方法（経管、胃ろうなど）
 - ・咀嚼障害への対応
 - 本校の食形態と再調理時の工夫
- 〔食形態の調整、トロミ調整食品の使用、栄養補助食品の使用、姿勢の調整
食具の工夫、嚥下方法の指導、嚥下体操、口腔ケア、外科的治療 など〕



今年度4月の給食指導は約2週間でしたが、学校再開後の給食に向けて、発達段階に応じた指導と摂食嚥下機能障害の予防の意識を強くもつことができました。本校の食形態についても話していただき、今後、児童生徒の実態に応じた再調理の工夫、食形態の調整に役立てていきたいと思いました。研修会で学んだことを生かしながら、より「安全でおいしく楽しい食事」を目指していきたいと思っています。

<職員の感想から>

- 臨床の視点から、嚥下や摂食指導等を学ぶことができ、とても勉強になりました。
- 普段何気なく食事をとっていますが、日々の摂食指導の大切さと危険性を改めて感じることができました。気持ちが引き締まりました。
- 姿勢や介助のポイント等、この研修で知り得たことを、これからの水分補給や給食指導で生かしていきたいです。
- トロミ調整が、飲食物の落下スピードが落ちて安全に食べやすくなる、食べやすくなりカロリーを確保しやすいと知りました。
- 歯磨き指導も重要であることを学ぶことができました。
経口摂取をしていない児童生徒にも、口の中を清潔に保つよう指導していきたいと思っています。

